

第9回 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産学術委員会（議事要旨）

日 時：2020年12月15日（火）15:00～17:00

場 所：大阪府庁咲洲庁舎 38階会議室

出席委員：岡田委員長、和田副委員長、稲葉委員、福永委員、増田委員、
シュタインハウス委員

オブザーバー：文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室西川調査官、岩村係長、
中門氏

（※議題1～3：公開、4：非公開）

-：委員

1 モニタリングについて（議事）

○実施マニュアル案の内容について説明し、陵墓と史跡古墳のモニタリングに関して理解を得るとともに、次のような留意点について指摘を受けた。

-モニタリングによって問題が把握された際、関係者間で確認を行うとともに、その状況に応じた対処方法についてあらかじめ検討しておくこと。

-モニタリングと遺産影響評価を含む保存管理にかかわる各種の取組について、それらの前提となる保存管理体制の枠組みの中に適切に位置づけるという認識を改めて深めること。

2 遺産影響評価および遺産影響評価関連事業について（議事）

（大仙公園基本計画にかかる遺産影響評価書）

○次のような留意点についての指摘を受けたうえで、案の内容について理解を得た。

-文書の構成をふまえ、各セクションにおいて最も適切な表現を精査すること。

-将来的により精緻な樹木管理が進められていくことを期待する。

3 本年度事業について（報告）

○各種の取組について報告し、質疑の結果、次のような留意点が指摘された。

（構成資産の水質調査について）

-季節、水量、水温などの前提条件を正確に記録すること。

-モニタリング項目への追加も視野に入れつつ調査を行うこと。

（構成資産の構造的安定性に関する分析手法の比較検討について）

-古墳の内部構造の調査は難しい課題だが、積極的に新しい手法を開発してほしい。

-イコモスの意図は、あくまでも墳丘の構造的安定性の評価にあることに注意すること（非破壊で、ということが最優先ではない）。

-地震被害を受けた他地域の古墳の調査事例等にかかる情報収集を行うこと。

（来訪者受け入れ方策にかかる調査分析委託）

-今後、海外からの来訪者の意向調査を行うことを視野に入れつつ実施すること。

-その際、海外からの来訪者の意向・行動が地域、世代等によって大きく異なり、多様で

あることに留意すること。

(百舌鳥エリアにおけるガイダンス機能について)

-施設のハード面だけでなく、インタープリテーションの側面（解説ガイドの仕組み等）が重要となることを踏まえ、準備を進めること。

以 上